



美和・緒川・御前山平和の会 総会報告

～ ころ一つにしてがんばっていこう ～

2022年度美和・緒川・御前山平和の会総会が7月16日(土)午後1時30分から緒川地域センター2F大会議室で開かれました。名前が示す通り3地域がいっしょになり、「結成から23年が経過。24年目となる。僻地で平和を守る活動をしてきた」と山口孝会長は挨拶されました。

この地域は栃木県と県境を接し、オカリナ奏者の宗次郎氏の「Sojiro オカリーナの森」(オカリナ工房など)が「緒川ふれあい森」の中に建設されていることでも知られています。参加者は来賓も含め13人。おみやや平和の会の相沢静男会長からはメッセージが寄せられました。

21年度の活動経過報告は5つの分野について総括し、とくに「2 平和パネル展の開催」では「初めて市と市教育委員会から後援」を受けて広島市立基町高校の生徒が描いた「原爆の絵」63点を展示(8月1日～10日)することが出来ました。22年度の「平和パネル展」(8月2日～11日)のチラシはすでに新聞折込し、県立小瀬高校及び常陸大宮市立明峰中学校を訪問、チラシを置いて来たことが報告されました。

「3 憲法改悪を許さない全国署名の取り組み」では「目標200筆に対し254筆を集めることが出来ました」とあるように、県内で最も多くの署名を集約しています。コロナ禍が長引く中

で、ご苦労されたことでしょう。「5 国民平和大行進水郡線コースへの参加」は、「本会からは延べ55名が参加」し「実行委員会担当としての責務を担いました」と報告しています。毎年、福島県からのバトンを最初に受け取り、7月1日大子駅前から出発しています。「主な活動日誌」には、年5回の役員会において活動方針を決めて、署名及び新聞意見広告・憲法フェスティバル賛同金集約等にきちっと取り組んで来たことがまとめられていました。22年度活動方針案と予算案、役員案は提案通り採択されました。

意見交換で一番の話題となったのは、安倍晋三元首相の「国葬」についての疑問などでした。「国葬」にする基準はあるのか、国葬の日に日の丸を掲げろなど国民を監視する動機になるのではないかと、昭和天皇の際は喪章をつけなさいと言われた、税金を国葬に使ってほしくない、自民党葬にすべきなどの意見が出されました。「これから大変な時代になる。ひしひしと感じる。国葬などにも機敏に動けるようにしないと、どうということになるのか。ころ一つにしてがんばっていこう」とも。総会後は、「日本国憲法前文」について学習しました。(報告:篠原 睦)



常陸太田平和の会 総会報告

～ 無理をせず、発想力をゆたかに ～

常陸太田平和の会は、毎月の事務局会議を定例化していますが、年度毎の総会を持たず、何となく年月が経ってしまいました。コロナ感染症蔓延以前はお花見や温泉での一泊など交流と親睦を図ってきました。長年、会長と会計を兼任していただいた鈴木正彦会長に甘えてきましたが、「そろそろ会長の交代を」との申し出があり、7月16日(土)、会長等役員交代をきちんとするため久しぶりに総会を開催しました。

県立太田一高の近くにある太田公民館を予約(無料)しました。当日は、ハーモニカ愛好者のご婦人たちが別室で熱心にハーモニカを練習し、メロディが時々流れてきました。総会参加者は10人程を予定していましたが、集まったメンバーはいつもの事務局員5人でした。

活動報告と収支決算報告を承認、活動計画案・役員選出案を確認しました。飯田美弥子弁護士の憲法連続講座がよかつ

たこと、ロシアによるウクライナ侵略抗議スタンディングに2度取り組んだこと、土地利用規制法廃止を求める請願が総務委員会で審議され短時間で否決されたことなどが話題となりました。また8月15日の「終戦記念日」に市内の寺院において「平和の鐘」を撞いたが、今年は2か所で実施することになりました。事務局会議参加を会員に呼びかける、毎回平和新聞等の学習をする、あの人の人に入会の声を掛けることも決まりました。

会長と会計は、白田義昭さんが引き継ぐことになりました。県平和委員会の常任理事にも今年度選出されています。年々高齢化がすすむ中で一人何役も引き受けざるを得ないところがあります。これからも無理をせず、発想力をゆたかに、そして会員の事情に配慮しながら活動していきます。

(報告:篠原 睦)



阿字ヶ浦海岸における自衛隊訓練監視活動報告Ⅳ

～わたしたちも「アンテナ」を高くして～

2021年5月20日、22年2月7日と3月23日に続いて4回目となる阿字ヶ浦海岸一陸上自衛隊の訓練を7月12日（火）の午前中、ひたちなか平和の会と監視しました。

この日は薄曇りながら蒸し暑く、7月16日（土）の海開きを待ちかねように30人程の海水浴客が浜辺などにテントを張ったり、遊泳したりと楽しんでいました。海の家を建てている人たちも見かけました。

駐車場の一角には、「東部方面システム通信群第3科陸上自衛隊朝霞駐屯地」所属のカーキ色の通信装置車が1台停車し「陸上自衛隊東部方面総監部が実施する通信訓練において、施設内に陸上自衛隊の保有する通信機器を開設。近傍駐屯地等との間の通信確保を確認し、整齊円滑な活動基盤の確保に資する」（民有地展開企画書－使用目的）ことをしていました。※整齊（読み＝せいせい 意味＝きちんとととのっていること）。人員3人が任務に当たっていました。

ひたちなか市内に回覧された文書（お知らせ 陸上自衛隊の訓練について）には「災害等発生時における通信所

の場所を確認するもの」（目的）とあり、企画書の内容と合致しないように思われます。

また回覧文書からは陸上自衛隊勝田駐屯地の部隊の訓練と受け取る住民が多いのではないのでしょうか。実際には「朝霞駐屯地」所属部隊の訓練です。

ところで、災害「等」とありますので、「有事」における「近傍」？駐屯地「等」との通信確保を目的としているのかもしれない。上陸作戦、または水際対策を想定した訓練なのか。

県内には13の自衛隊関連施設があると言われます。岸田内閣は、防衛力強化を急速に進めようとしていますので、わたしたちも「アンテナ」を高くして監視活動や情報交換、訓練の分析、訓練反対など必要に応じた取り組みをしましょう。（報告：篠原 陸）



故安倍元首相の「国葬」について－日本平和委員会方針から

日本平和委員会第1回常任理事会が7月17日（日）開催されました。代表理事の岸松江弁護士は開会あいさつの中で、安倍晋三元首相の「国葬」問題を取り上げました。「国葬は、安倍政治を礼賛し、安倍改憲の意思を継いで岸田内閣が改憲するための布石、一里塚にしようとしているのではないかと述べられました。それを受けて「国葬は憲法違反ではないか」「そもそもテロと言えるのか」「安倍政治を美化することは出来ない。様々な問題があった」「税金を使うことは認められない」など常任理事からも発言が相次ぎました。

山口県では、安倍元首相の葬儀当日（12日）は弔意表明として半旗掲揚とする対応を各行政機関長や各市町長、県立学校長、市町村教育長などに通知しています。「国葬」となれば、弔意表明を強要する恐れがあり、思想信条の自由等内面の自由を蹂躪することになりか

ねません。このことに関する日本平和委員会の方針－「夏から秋へ、2022年日本平和大会に向けた私たちの活動方向」は次の通りです。

(1) 故安倍元首相の「国葬」とその政治利用に反対する

岸田政権がすすめている故安倍元首相の「国葬」は、国費を使って特定の個人の特定の評価を国民に押し付けようとするものであり、日本国憲法の国民主権、思想・良心の自由、民主主義の原則に反するものである。しかも、憲法を根本から破壊し続け、民主主義と政治倫理を蹂躪し続けてきた安倍元首相の負の遺産を称賛し、憲法改悪や軍拡推進に政治利用しようとするものである。私たちは「国葬」と自治体や教育現場などでの弔意の押し付けに反対し、冷静な論議を通じて、安倍・菅政治の害悪とこれを継承して改憲をめざす岸田政権の危険性を徹底的に明らかにする活動を広げる。

2022年原水爆禁止世界大会 平和委員会交流会

日程 8月5日（金）午後5時～6時45分まで

場所 広島市 生協けんこうプラザ5階大会議室

土地利用規制法学習会案内

日程 8月6日（土）午後1時30分～3時まで

場所 水戸共同ビル2F 水戸市白梅3-13-8

講師 安江 祐 弁護士 ※オンライン受付中